



2025 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ
代表者名 代表取締役社長 上四元 絢
(コード：6574 東証グロース)
問合せ先 執行役員 藤本 光
(TEL：03 (3770) 1190 (代表))

業績予想の上方修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2025年6月19日に公表した業績予想を下記のとおり上方修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）通期業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的 1 株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,000	1,000	1,000	654	654	150.90
今回修正予想 (B)	7,160	1,520	1,520	994	994	227.30
増減額 (B-A)	160	520	520	340	340	—
増減率 (%)	2.3	52.0	52.0	52.0	52.0	—
(ご参考) 前期実績 2025 年 3 月期	3,241	135	128	78	78	17.96

2. 2026 年 3 月期 通期業績予想の修正理由

当社グループは、2025年6月19日に公表した2026年3月期通期業績予想を、最近の業績動向を踏まえ、売上収益を7,160百万円（前回予想比+160百万円）、営業利益を1,520百万円（同+520百万円）へと上方修正いたしました。売上面の上振れ幅を大きく上回る営業利益の増額は、事業ポートフォリオの質的転換が進展し、高付加価値・高マージン事業の比重が想定以上に高まったことを主因とするものです。

【各事業の売上収益、営業利益の予想数値の修正推移】

(単位：百万円)

		ネイル事業	コンサルティング事業	ヘルスケア事業	インベストメント&アドバイザリー事業	連結修正	連結財務諸表
5月15日付開示	売上収益	3,273	518	953	1,105	△250	5,600

業績予想	営業利益	226	74	125	85	—	510
6月19日付開示 業績予想修正	売上収益	3,300	1,050	1,700	1,200	△250	7,000
	営業利益	250	220	520	10	—	1,000
7月31日付開示 業績予想修正	売上収益	3,300	1,100	1,810	1,200	△250	7,160
	営業利益	250	430	830	10	—	1,520

(注) 百万円未満を四捨五入して記載しております。

具体的には、①株式会社Convano consulting（以下「Convano consulting」）の2025年6月と7月における高単価コンサルティング契約の獲得進捗、②連結子会社である株式会社シンクスヘルスケア（以下「シンクスヘルスケア」）がLG Chem Ltd.（以下「LG Chem」）とPMDA（医薬品医療機器総合機構）承認取得に向けた業務提携契約 Advisory Agreement（以下「AA」）を締結することによる、薬事承認プロセスの実効性・スピードの向上と将来収益化への確度上昇に加え、③シンクスヘルスケアにおいて独占輸入代理権を取得済みの高単価医療用ヒアルロン酸製剤、脂肪溶解注射製剤等について、2025年7月に取扱数が急増し、売上・利益双方の押し上げが顕在化していることが収益構造の改善を牽引いたしました。5月15日付開示（以下「5月15日付」）→6月19日付開示（以下「6月19日付」）→7月31日付開示（以下「7月31日付」）における事業別の推移をまとめると、以下のとおりです。ネイル事業は、既存サロンの客席稼働率を丁寧に高める「足元改善型」の施策が奏功し、売上収益は3,273百万円→3,300百万円→3,300百万円と緩やかながらも堅調に上振れました。大型出店や設備投資に依存せず、予約調整・スタッフシフト最適化・リピート率向上といったオペレーション面の磨き込みに注力したことで、同一店舗あたりの稼働効率が向上しています。営業利益も226百万円→250百万円→250百万円と横ばいながら改善を維持しており、固定費の変動化と材料ロス削減が利益率を底上げしました。大規模投資を伴わないため追加コスト負担が限定的で、安定成長の礎となっています。コンサルティング事業では、Convano consultingが6月・7月に連続受注した高単価案件の効果が想定を大幅に上回りました。売上収益は518百万円→1,050百万円→1,100百万円と5月15日付に対して6月19日付、7月31日付ともに倍増し、営業利益は74百万円→220百万円→430百万円と5月15日付に対して6月19日付は約3.0倍、7月31日付は約5.8倍へと急拡大しています。高価格帯プロジェクトの割合が拡大したことで、平均案件単価が押し上げられたうえ、プロジェクト進行テンプレートの再利用による作業効率向上で粗利率も改善しました。人的リソースのレバレッジが効きやすい同事業の特性が利益成長に直結しており、今後も大型案件の積み増しが見込まれます。ヘルスケア事業は、シンクスヘルスケアがLG Chemと締結予定のAAを通じて薬事承認プロセスの実効性・スピードが高まり、独占輸入する高単価医療用ヒアルロン酸製剤の取扱が加速しました。売上収益は953百万円→1,700百万円→1,810百万円と5月15日付に対して、6月19日付、7月31日付ともに2倍近くに達し、営業利益は125百万円→520百万円→830百万円と5月15日付に対して、6月19日付は約4.2倍、7月31日付は約6.6倍へ跳ね上がっています。LG Chem からの包括的支援によりPMDA事前相談や治験設計が迅速化するほか、7月には高単価医療用ヒアルロン酸製剤・脂肪溶解注射製剤の取扱数が急伸し、高マージン商材によるミックス改善が利益率を大幅に押し上げました。インベストメント&アドバイザー事業は、事業領域拡大と営業活動のための販管費費用の増加の影響を保守的に計画に折り込み、営業利益が85百万円→10百万円→10百万円と大きく縮小しています。一方で売上収益は1,105百万円→1,200百万円→1,200百万円と横ばいを維持しており、再編後の資産構成が安定化したことで、7月以降は利益水準も足もと横ばいで落ち着いています。再編効果が一巡すれば、今後は安定的な継続収入とキャピタルゲインの両立を図る方針です。以下で今回の業績修正に関する寄与の大きいConvano consultingとシンクスヘルスケアの動向をさらに詳しく説明させていただきます。

まず、Convano consultingにおいては、美容系・医療系分野の専門性と当社グループが有するネットワークを活かしたコンサルティング案件の受注が想定を上回り、案件単価の上昇が継続しております。当該事業は人的リソースのレバレッジが効きやすく、資本投下が相対的に小さいビジネスモデルであることから、売上の増加率以上に営業利益率の改善に寄与しております。加えて、プロジェクト遂行の過程で蓄積される知見・フレームワーク・データベースが再利用可能性を高め、同一リソース当たり収益性の通増が見込まれることから、当該上振れは一過性ではなく、今後も一定の再現性を持つと判断しております。今後さらなる大型案件を獲得するために、複数社と業務提携の交渉をおこなってまいります。

次に、シンクスヘルスケアは、2025年1月1日にLG Chemとの間でBusiness Collaboration Agreement（以下「BCA」）を締結し、日本国内における医療用ヒアルロン酸製剤等の独占輸入代理権を取得済みですが、AAを新たに締結することにより、PMDAでの製造販売承認取得に向けた実務面の推進力が大きく強化されます。LG Chemとの業務提携関係の下でシンクスヘルスケアは、LG Chemから、PMDA事前相談（日程調整・議題整理・同席）、治験計画のデザインおよび適切なCRO紹介・契約支援、非臨床・臨床データパッケージのレビューとギャップ分析、申請資料（CTD）ドラフトの作成支援・翻訳ならびに承認審査Q&A対応、といった薬事承認の成否とスピードに直結する領域で包括的な支援を受ける体制を確立します。

対象となる医療用ヒアルロン酸（HA）製剤は、韓国・欧州を中心に40カ国超で上市済みのグローバル製品であり、既に高い安全性と長期持続性に関する豊富なデータが蓄積されています。これら既存データの活用により、日本国内での追加的試験・資料整備の負担を一定程度低減しうることから、承認取得プロセスの短縮とコスト最適化が期待されます。さらに、当社は国内の自由診療クリニック向け販路およびKOLネットワークを保有しており、LG Chemの研究開発力・海外薬事実績と当社の国内営業力を補完的に活用することで、承認取得後の上市フェーズにおける早期の市場浸透とシェア獲得を見込んでおります。現在LG Chemと医療用ヒアルロン酸製剤以外の製品の独占輸入代理権の取得も交渉段階にあり、さらなる高単価商材の拡充を見込んでおります。LG Chemは電池材料、サステナビリティ、バイオの三領域でグローバルに事業を展開するLGグループの中核企業であり、将来的には日本市場向けの新規美容・再生医療関連プロダクトの追加導入、さらには共同開発・共同臨床の可能性も視野に入ると考えております。BCAおよびAAを通じて当社内に蓄積される規制対応ノウハウ、治験設計・CROマネジメント能力、CTD作成・運用力は、後続プロダクト導入時の限界費用を削減させ、パイプライン運営を再現性の高い企業能力へと昇華させると期待しております。結果として、製品ポートフォリオの多層化と収益の分散化（単一製品依存からの脱却）が進み、中期経営計画に掲げる高利益成長トラックの実現可能性が一段と高まるものと考えております。

なお、AA締結に伴う費用につきましては、シンクスヘルスケアの営業キャッシュフローから全額を充当する方針であり、連結ベースでの資金繰りリスクを適切に統制しつつ進捗させる計画です。

加えて、2025年7月において、シンクスヘルスケアが独占輸入代理権を有する高単価医療用ヒアルロン酸製剤、脂肪溶解注射製剤等に関する取扱数が急激に増加しており、当社グループの短期的な売上収益および営業利益を一段と押し上げる方向で寄与しています。これは、BCA締結後に整備してきた薬事・取扱準備の成果が早期に顕在化しつつあること、ならびに当社が保有する国内販路・KOLネットワークを活用した導入促進が奏功していることの表れであり、今後の承認取得および上市後のフルスケール展開に向けた収益ポテンシャルの高さを裏付ける動きと認識しております。BCA締結以降に当社が整備してまいりました薬事・取扱準備と国内営業力が、実需の局面で有効に機能し始めていることを示す先行シグナルであると受け止めております。これらの取扱実績に基づくフィードバックデータは、今後のPMDA対応や市場開拓戦略の精緻化に反映し、承認取得後の本格展開フェーズにおける初速の最大化に寄与するものと見込んでおります。以上のとおり、LG Chemとの提携は、高収益ポートフォリオを確立

するうえで、薬事・臨床・データ・販路・KOLといった各レイヤーを有機的に結び付ける統合プラットフォームとして機能してまいります。

以上の結果、当社の2026年3月期通期予想においては、売上収益の増額幅を大きく上回る営業利益の増額が実現しており、営業利益率は前回予想を大きく上回る水準となる見込みです。すなわち、数量の拡大だけでなく、ミックスの改善と高付加価値領域の拡大が利益押し上げの主因であり、当社の利益創出力が構造的に高まっていることを示すものです。今後も、Convano consultingにおける高単価案件の積み増しに加え、シンクスヘルスケアにおけるPMDAでの承認プロセスの各マイルストーン（事前相談、治験計画策定、CTDドラフト作成、申請、審査Q&A対応、承認、上市）を確実に進めるとともに、当該医療用ヒアルロン酸製剤等の取扱拡大と脂肪溶解剤等の高単価商材の取扱拡大を通じて、製品ポートフォリオの多層化と中長期的なキャッシュフローの安定化を図ってまいります。

3. 今後の見通し

当社は2025年6月19日に「中期経営計画の修正に関するお知らせ」を公表しております。同計画では、2027年3月期に売上収益15,000百万円、営業利益3,000百万円を目標としております。

なお、業績予想は現時点の情報および合理的な前提に基づいておりますが、経済環境の変動等により実際の業績が記載数値と大きく異なる可能性があります。当社は、重要な進捗や前提条件の変化が生じた場合には、速やかに開示を行い、投資家の皆様との情報ギャップの最小化に努めてまいります。6月19日付「中期経営計画の修正に関するお知らせ」で「本中期経営計画の修正に伴い、2025年5月15日付「2025年3月期 通期決算説明資料（事業計画及び成長可能性に関する事項）」の改訂版を別途開示する予定とお知らせしましたが、2025年8月14日に開示を行う予定です。

以上